

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102087		
法人名	有限会社 ひよこ		
事業所名	グループホーム コケッコー		
所在地	岐阜県岐阜市鏡島南1丁目11番7号		
自己評価作成日	平成21年12月25日	評価結果市町村受理日	平成22年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaihosip/infomationPublic.do?JCD=2170102087&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒501-6232 岐阜県羽島市市鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成22年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・基礎知識を基にした職員と利用者もお互い「生きる」ことを楽しめるよう、共に個性と持ち味でその人らしさを活かし、怒ったり泣いたり笑ったり、また四季を楽しめる工夫をしたり、家族のように生活を楽しんでいます。
 ・また生活の基本でもある健康管理には早期に敏感に感じ取れる職員であるよう常に知識や意識を高める努力を常に行っています。特に食事は利用者の協力も得ながら季節感・栄養バランス・味付け等にも配慮し不満足にならない楽しい食事をと努力をしております。
 ・認知症ケアについては、全職員で協議の場を設け、認知症に関しての研修を受けている職員の助言を基に、全員で話し合い、職員の認知症ケアに対する意識も向上している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を人生の先輩として尊敬するという考えを職員が共有しており、ならば自分たちはひよこであるとの思いから「コケッコー」と事業所名が付けられている。職員は利用者の思いや、不安、喜びなどを知ることに努め、家庭的な暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係を大切にしている。事業所は、認知症の悩み相談を受け付ける日を毎月14・15日に設け、広報でお知らせし、地域の高齢者の暮らしに貢献し、交流を深めたいと考えている。利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく為に、外部評価はケアサービスの質のアップに向けて飛躍する機会ととらえ、スタッフ全員で話し合い改善に向け取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回の外部評価後、職員全員で覚えやすい理念を新たにつくり、ミーティングで確認し合い、具体的なケアについて支援の統一を図っている。	「そのひとを知り”その人らしい暮らし”を共に楽しみたい」を理念とし、職員全員で話し合い、更に実践に繋げ易く、社会的役割を認識した内容になっている。ミーティング開催時にはケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出掛け、近隣の人と挨拶を交わしたり、子供達とのふれあいも行なっている。また、ホームの催し物・お願い等を盛り込んだホーム便りを回覧している。	自治会に入り、老人会や市民運動会、地域の清掃活動に参加している。子供会を招いて地域の子供達と交流をしている。近隣の方から野菜を頂くこともあり地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症に関する理解の場を設けたり、会議の出席者に利用者1対1でのコミュニケーションする機会をつくらせたり、毎月14・15日は認知症の悩み相談を受け付ける日を広報しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告を文書にして配布、説明を行っている。参加者からの意見・助言・要望等を受け止め、今後のサービスに繋げるよう努めている。	運営推進会議には家族、自治会長、老人会長、民生委員、行政、地域包括支援センターなどの参加がある。参加者からの意見で、ホーム便りに夜間緊急時の協力をお願いしたり、防災訓練の協力を得ることもできた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や生活福祉課の担当者、高齢福祉課とも連絡を取り合いながら、入所者へのサービスの助言と協力を得ている。	措置入所、生活保護、日常生活支援の方などの取り組みを相談しながら協力関係を築くよう連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関・勝手口の施錠はしていない。やむを得ない身体拘束に関しては、家族に報告と確認を行って、出来る限り早期に取りやめる努力をしている。職員には徹底済みで常に報告連絡相談をしあっている。	日々寄り添いながら利用者一人ひとりの思いを把握するように努め、話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング内で職員全員に理解浸透を行ったうえで、相談や話し合いを徹底して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進委員の研修済みである代表者は、日常生活自立支援事業を利用されている入所者についての説明や成年後見制度についてもミーティング時に全職員に説明を行って、活用についても支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に職員数名で丁寧に説明している。また、利用者側の立場にたち、疑問や質問には納得されるまで説明をしている。利用料の改定時には文書にて報告し、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の言葉や態度からその思いを察する努力をし、全職員で情報を共有したうえで、ケアに活かしている。 家族が来所された折には、要望等が言い易いようなコミュニケーションを図るよう心掛けている。	毎月利用者の様子や状態をまとめ家族に知らせ、家族の訪問時や運営推進会議などで意見、要望を聞くようにしている。家族からの意見により、居室の環境に配慮し排泄がスムーズになった例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心掛けており、意見を言い易い環境が出来あがっている。	入浴困難な利用者について職員からの提案があり、医師の助言も得て安心して入浴ができるようになった。代表者は職員意見を常に前向きにとらえ、事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場で起きている状況や変化を知る努力をしており、職員の努力や成果を把握して働きやすように様々なことに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業者外で開催される研修には、個々に適した研修を受講する機会を確保している。また、その報告はミーティングにおいて発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、出来るだけそういう機会を設けるよう努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がおかれている状況を理解し、受けとめ、その人を知ろうと努力し、全職員が徹底して本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所直後には小まめにその方の様子を家族に伝え、家族の話をやっくりお聞きし、求めているものと、こちらの思いも伝えお互いに理解しあえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の実情や要望を基に何が必要かを見極め、出来る限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たないように心掛け、お互いが協働しながら喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を伝え、家族の思いを聞くことで、家族間の繋ぎ目役をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚等「また来たい」と思ってもらえるように、どんな時に訪問されても声掛けとおもてなしに気を配って和気あいあい環境作りを心掛けている。	友人の訪問が時々あり、お茶を提供したり、声掛けするなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、入所者同士の関係を見守ると同時に、調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援をする体制はできていましたが、全員亡くなられ、現段階では対象者はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の表情や言葉からの把握に努めている。意思疎通の困難な方には、相手の立場になり話し合っている。	日々の関わりの中で全体を見ながら、一人ひとりに合わせて声を掛け、思いや希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前面談などで訪問をしたりして、本人・家族・関係者からの十分な情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や関係者からの情報に捉われず、出来る事・わかる力を本人の生活や全体像から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人の思いや要望を聞き、反映させるように努め、職員全員で意見交換・モニタリングを行っている。	本人や家族の意向、職員の意見など、毎月のミーティングで話し合い、モニタリング、アセスメントを含め介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にファイルを用意し、日々の暮らし等を記録している。 短期目標を職員全員が常に意識を持つよう日報に記録欄を取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の希望を汲みとり出来る限り支援しています。訪問マッサージを利用している方が4名。訪問リハビリは一名の方が利用、地域のスーパーマーケットに時々買い物もいきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としつつ、本人と家族の同意の納得の上で、事業者の協力医をかかりつけ医とされている。また、受診や通院は希望に応じて対応している。	馴染みのかかりつけ医に受診できる支援はある。協力医の往診は月に2回行われている。利用者家族や医療機関との関係を密に築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、24時間、緊急時の相談・助言等も可能な体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為に医師や家族と、ホーム内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるように話をする機会を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、安心して終末期を過ごしていけるよう終末期に向けたホームの指針を理解していただき取り組んでいる。	重度化に伴い医療体制が整っている。安心と苦痛のない終末を迎えられるよう家族や医師、スタッフが話し合いをしながら支援に取り組んでいる。家族と一緒に看取った経験もあり、関わった職員間には終末期の方針の共有および対応の自信が生まれた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング内で看護職員を中心に勉強会を随時行って、マニュアルを共有する場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二度避難訓練を様々な災害を想定して、訓練参加者も交代しながら実施している。運営推進会議に合わせて行うことも多く、地域の出席者にも参加をしていただき地域の協力もお願いしている。ホーム便利にも呼び掛けている。	昨年の評価を踏まえ備品の準備が完了した。年2回の避難訓練も夜間を想定し実施できた。また地域の協力が得られるように、ホーム便りでも呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング内で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の指導を行っている。	ポータブルトイレに座った時プライバシーを損ねないように膝に掛物をしたり、居室内でもトイレが直接人の目に触れないような配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者どうしトラブルが起らないよう、日常生活の中で一人一人に合わせ、様々な方法で利用者に希望や自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の「したい事」を把握し、個別性のある柔軟な支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度訪問美容により好みのヘアスタイルにしてもらっています。各部屋には鏡がとりつけてあり、好みの洋服を着ていただく支援をしています。希望される入所者には入浴時間に合わせて職員が毛染めをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備を出来る範囲で利用者と共に行い、後片づけも出来る方に手伝っていただいています。職員も入所者と一緒に食事を楽しんでいます。	出来る方は食事の下ごしらえや後片付けを一緒に行ったり、季節によってはおはぎやぜんざいを作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の能力に合わせて食事の形態を変えている。食事・水分の摂取量を個別に記録、職員が情報を共有し、変化の有無が解るようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指導の元に、個々に合わせたケアを行っている。特に就寝前のケアは夜勤者は二階入所者の義歯の管理を日報で、一階入所者は遅番が歯磨き支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の時間や習慣を把握し、一人ひとりにあった、排泄感覚を取り戻す、不快のない排泄への支援を行っている。	トイレ誘導への声掛けをしたり、レベルに合わせて排泄の自立にむけた支援に取り組んでいる。排泄パターンを把握し、夜間トイレ誘導することによって尿漏れがなくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為の食材をふんだんに採り入れ、水分を摂りたがらない人には、飲みやすい飲み物を用意したりして、自然排便を促す努力を日々行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決まっているが、出来る限り希望に配慮して、一人一人に合わせた入浴支援を行っている。	基本的には週に2回入浴剤を入れて入浴をしているが、状況によりシャワー浴や部分浴を行っている。季節によって、ゆず湯を楽しむことがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や希望・環境に配慮して休息・安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「内服薬管理帳」を作成し、閲覧できるようにしている。薬が変更された時には状態観察をし、記録をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が十分に個性を把握しており、得意分野で力を発揮してもらえるようにそれぞれに役割を持ってもらって生活ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて心身の活性化につながるよう散歩、買い物に出掛けている。重度の入所者も外出の機会を設け、散歩が困難な場合には日光浴が出来るような支援をしている。	近隣のスーパーへ買い物に行ったり、散歩、花見などの支援はあるが、利用者からの希望がないと外出が困難となっている。	外出はその人らしく暮らし続ける支援の為に重要であることを理解し、利用者に合わせ移動の配慮をしながら個別外出支援の検討を希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、少額を手元を持ってもらって自分でお金を払っていただけるようにしている。欲しい物を気軽に言える環境作りも努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの手紙への返事を代筆しています。家族の思いを汲みとって出来る限りの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあったBGMを流したり、温湿度計の設置して調整、季節の生花を飾ったり、ゆず湯やおはぎ作り等、季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。	玄関には季節を感じさせる置物があり家庭的な雰囲気である。居間にはゆったりとくつろげるソファがありテレビを觀賞したり利用者同士談話をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子を置き、季節に応じた飾り付けをした落ち着いた空間があり、居間ではそれぞれのお気に入りの椅子と居心地のよい場所が決まっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、本人の好きな人形を置いたり、馴染みの物を傍に置くなど個別に応じた工夫をしている。	利用開始時には馴染みの使い慣れた物を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるよう配慮している。季節の草花を本人が生け楽しんでいる人もある。持ち込みの少ない場合には、職員がその人らしい居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の「現在の状態」に合わせて、随時環境整備に努めている。心身機能の変化が見られた時には職員一同で話し合いをしている。		